

2023年10月3日

2023年度 研究者交流支援制度実施報告書

招聘責任者 鈴木賢志
(国際日本学部専任教授・学部長)

招聘者

氏名 ジャクリーヌ・ベルント (Jaqueline Berndt)
職格・所属 Professor, Department of Asian and Middle Eastern Studies, Stockholm
University (スウェーデン国ストックホルム市)
期間 2023年5月22日～2023年6月4日

1. 招聘の背景

招聘責任者である鈴木は、本学着任前の2008年3月までスウェーデンのストックホルム商科大学に併設された欧州日本研究所に勤務しており、同市内で日本文化や日本語の教育を行っているストックホルム大学とは深い親交があった。

今回招聘したベルント教授は、鈴木が親交のあった教授の定年退職に伴ってストックホルム大学に着任されたので、同じ時期にストックホルムで働いたわけではないが、お互いのネットワークを通じて紹介され、新たな知己を得ることとなった。

ベルント教授はドイツ出身だが、彼女は長らく日本の京都精華大学で教鞭を執られ、その後スウェーデンに渡られた。日本語が堪能で、1990年代以降、メディア芸術学および比較文化論の視点からマンガ研究に携わり、今や日本のマンガ研究において世界をリードしている。なお、実はその関係で、同じく日本のマンガ研究における第一人者である本学国際日本学部の藤本由香里教授とも親交があり、スウェーデン、マンガという両面から本学国際日本学部とのつながりを持つ稀有な存在でもある。

そのような背景から、彼女を本学部に招聘することになったのは極めて自然な流れであったが、初めて招聘した際のタイミングがコロナ禍と重なり、しばらく実現しないまま数年を経て、ようやく本年度に実現を見たものである。

2. 講演会

ベルント教授が本学ご滞在中の5月29日(月)の5限に、中野キャンパス310教室にて「マンガ・フェミニズムの諸相：女性作家によるスウェーデンのコミックと日本漫画を

めぐって」とのタイトルでご講演をお願いした。

そこでは、ジェンダー政策とメディア環境、文学の制度的地位に焦点を当てながら、スウェーデンのマンガ事情を俯瞰し、日本とスウェーデンの女性マンガの相違点と共通点についての論考が示された。中でもスウェーデンで21世紀初頭以来急激な向上を見せ、商業的にも成功している「フェミニズム系コミック」に焦点を当て、それらが女性的表現の面では日本漫画の翻訳版や漫画式作品との接点を有するにもかかわらず、評論家や研究者によって日本漫画と正反対の「グラフィック・ノベル」に位置づけられてしまう傾向が著しいとの指摘がなされた。

講演会には、鈴木と藤本教授を含め、スウェーデン、ジェンダーあるいはマンガに興味を有する多数の学生が参加し、特に「スウェーデンとマンガ」という、一般にあまり交差が見られない二つのテーマのつながりを意識しながら、有意義な意見交換がなされた。

3. 事後の展開

本年は、コロナ禍による行動制限の撤廃を受け、鈴木は4年ぶりにストックホルムを含む北欧での学生研修を再開することができたが、今回の招聘が行われたことも功を奏してか、ベルント教授の計らいで、ストックホルム大学において現地の学生たちとの交流会を実施することができた。またその際に、様々な形での学生交流も含めた、さらなる教育・研究交流を進めていくことが確認された。

このように本制度を活用させていただいて、コロナ禍によって停滞していた国際連携活動を再び活性化させることができるようになったことについて、末筆ながら深く御礼を申し上げます。

以上